

Newsletter

— 学 会 会 報 —

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局本部

〈 目 次 〉

〈理事会報告〉

- I 各種委員会報告
- II 事務局報告
- III 審議事項

〈総会報告〉

- I 第 22 回大会年度(2011 年度)決算報告
- II 第 23 回大会年度(2012 年度)活動方針
- III 会則の改正について
- IV 第 24 回(2013 年)大会開催校について

〈第 23 回大会報告〉

- 〈広報委員会からのお知らせ〉
- 〈紀要編集委員会からのお知らせ〉
- 〈事務局からのお知らせ〉

— 〈 理事会報告 〉 —

[2012 年 7 月 6 日(金) 17:00~19:30 (於)名古屋ガーデンパレス]

定例の理事会が 7 月 2 日(金)午後 5 時から 7 時 30 分まで、名古屋ガーデンパレスで開催されました。理事 19 名、大会開催校関係者 1 名、および事務局 2 名が参加しました。水原克敏代表理事挨拶、大会開催校(中部大学)の豊田ひさき実行委員長の挨拶に続き、下記の議題を審議・決定しました。

I. 各種委員会報告

(1) 紀要編集委員会(八尾坂修委員長)

紀要第 21 号の刊行について報告された。なお、「課題研究 I」(100 頁)の記載内容について指摘がなされ、編集委員長を中心に協議し、結果は会報で報告することとした。

(2) 国際交流員会(磯田文雄委員長)

2011 年度から 2013 年度の紀要の海外動向欄の執筆者の依頼状況について、さらに、大会の課題研究において、海外の教育を研究対象とする者を積極的に登壇させることが報告された。

(3) 広報委員会（委員長欠席のため、代理：金馬国晴委員）

「日本カリキュラム学会連携事業」について報告された。〈広報委員会からのお知らせを参照〉

(4) 研究委員会（田中耕治委員長）

今大会の課題研究のグループ設定について説明がなされた。また、3月17日中部大学で開催された研究集会について、田村知子会員と清水仁先生（東村山市立大岱小学校教頭）の2件の発表により、盛会に終わったことが報告された。次回研究集会は2013年3月23日を予定している。

(5) 研究奨励賞審査委員会（八尾坂修委員長）

選考の結果、本年度は該当者無しとなった旨が報告された。

(6) 新カリキュラム事典編集準備委員会（小泉祥一幹事）

3月の理事会以降、そして4月29日と6月3日に開催された編集準備委員会の経過報告・作業報告とともに、『現代カリキュラム事典』改訂の項目案（執筆者候補を含む）が提案された。この経過をめぐって議論がなされ、近日中に常任理事会を開催し、事典編集のあり方について審議することが確認された（なお、ここでの議論は審議事項(2)を兼ねる）。

II. 事務局報告

(1) 会計監査について

6月10日に吉富芳正委員、桐谷正信委員の両監査と新旧事務局立ち会いの下、監査業務を行った。両監査より、謝金と旅費の支出のルールの特明確化が求められたこと、各種委員会活動活性化のために委員会毎に予算案を立てて決算報告を行うという提案がなされたこと、業務の外部委託に伴い予算の費目の見直しが求められたことを報告した。なお、今後の監査業務は監査と事務局長で外部委託先に出向いて行う。

(2) 学会誌販売価格の改定について

会員外への学会誌の販売価格を現在の1500円より値上げすることについて提案し、値上げ額は代表理事に一任することになった。

(3) 会報の紙媒体発行の停止とweb配信への切り換えについて

本号をもって会報の紙媒体での会員への送付を取り止め、web配信にすることについて提案し、了承された。なお、引き続き紙媒体での送付を希望する会員には送付することにした。詳細は〈事務局からのお知らせ(2)〉。

(4) 新入会員特典について

新入会員を増やすことと、古い学会誌の在庫の処分を目的として、新入会員には在庫リストの中から希望する2冊を提供することにした。

(5) 学会大会事務局対応について

事務局経費削減のため、今大会より学会大会に事務局を設置しないこととし、会費の納入のための振込用紙、新入会員の受付のための入会手続き用紙、過去4年分から最新号の紀要を大会受付に置くことにした。

(6) マイページ運営について

会員の元に6月中旬にマイページ(会員情報管理システム)が稼働するという通知が外部委託先から届けられているが、開設が7月上旬にずれこむこと、それにともない会員検索システムは9月上旬になることを報告した。

(7) 日本教育学会、日本学術会議心理学教育学分野別委員会からの提案について

上記の両提案について報告し、学会として前向きに検討することになった。

III. 審議事項

(1) 総会議事について

① 2011年度活動報告・決算(案)および2012年度活動方針・予算(案)について

標記について、すべて原案通りに承認された。

- ・ 会員現況概要：会員総数726名(一般632名、学生85名、団体9件。うち、連絡先不明者6名、会費未納による会員資格停止者54名を含む)、新入会員26名。会費納入率85.4%(昨年度63.6%)。
- ・ 学会誌『カリキュラム研究』第21号発行。会報「ニューズレター」第56号、57号、58号発行。会報は順次HPにも掲載。

② 会則の改正について

標記について、総会で提案する原案が承認された。

(2) カリキュラム事典編集委員会発足について

次回の常任理事会で審議したうえで、改めて検討することになり、議題としては削除することになった。

(3) 次期大会開催校について

次年度の第24回大会は上越教育大学で開催するとの代表理事原案が承認された。詳細については、11月の理事会で決定する予定である。

—— 〈 総会報告 〉 ——

2012年7月8日(日)、12時30分から13時30分まで、中部大学2210教育室において、豊田ひさき会員(中部大学)、瀬戸健会員(上越教育大学)を議長団として、総会が開催された。これにおいて、7月6日の理事会で承認された議案が、すべて承認された。

I. 第22回大会年度(2011年度)決算報告(2011年4月1日～2012年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)
学会年会費	3,700,000	3,791,000
入会金	80,000	52,000
学会誌代・雑収入・利子等	150,000	64,598
寄付	0	0
前年度繰越金	962,945	962,945
合計	4,892,945	4,870,543

支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)
第22回大会経費	650,000	775,135
第21号紀要刊行費	600,000	470,085
学会研究奨励賞費	0	0
印刷費(会報・封筒等)	300,000	141,282
通信費	500,000	342,357
会合費(含む交通費)	650,000	1,003,514
事務局人件費	800,000	669,500
消耗品費(含む雑費)	100,000	14,738
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
理事選挙・代表理事選挙実施費	100,000	292,822
各種委員会経費		
紀要編集委員会	300,000	271,985
広報委員会	100,000	95,390
国際交流委員会	100,000	0
研究委員会	100,000	60,000
学会奨励賞審査委員会	150,000	0
(小計)	750,000	427,375
予備費	150,000	138,200
次年度繰越金	242,945	545,535
合計	4,892,945	4,870,543

II. 第23回大会年度(2012年度)活動方針

(1) 一般方針

1. 年次大会(第23回大会)の実施
2. 第24回大会の準備
3. 学会誌『カリキュラム研究』第22号発行
4. 学会研究奨励賞
5. 研究集会の開催
6. 会報、その他の広報活動
7. 会員勧誘
8. 『カリキュラム事典』編纂準備について

* 『現代カリキュラム事典』改訂の編集準備委員会の報告内容を会員への情報提供として

示すのが親切ではないかとの意見が出されたが、常任理事会で審議してからの方がいいという意見が出され、そうすることになった。

(2) 第23回大会年度予算(2012年4月1日～2013年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	4,470,000	
入会金	80,000	40名見込み
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	
寄付	0	
前年度繰越金	545,535	
合計	5,125,535	

支出の部

項目	予算額(円)	
第23回大会経費	650,000	
第22号紀要刊行費	550,000	
学会研究奨励賞費	0	今年度該当者なし
会合費(含む交通費)	800,000	
事務局経費	450,000	事務局移転費用を含む
事務局外部委託費	1,500,000	初年度委託費用20万円を含む
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	
各種委員会経費		
紀要編集委員会	300,000	
広報委員会	100,000	
国際交流委員会	100,000	
研究委員会	100,000	
学会奨励賞審査委員会	150,000	
カリキュラム事典編集委員会	200,000	編集準備委員会経費も含む
(小計)	950,000	
予備費	175,535	
合計	5,125,535	

Ⅲ. 会則の改正について

学会年会費値上げにともない、会則の以下の2点が改正された。

①第三章(略) 第9条 本会の会員は次の会費を納入するものとする。

(1) 正会員 年額 8,000 円 (2) 学生会員 年額 5,000 円

②改正会則 6 第9条1項(1)及び(2)は2011年7月17日改正、2012年4月1日発効

Ⅳ. 第24回大会(2013年)開催校について

次期大会は上越教育大学において開催されることが承認された。

— 〈 第 23 回大会報告 〉 —

日本カリキュラム学会第 23 回大会を 7 月 6 日から 8 日にかけて中部大学で開催いたしました。梅雨末期の集中豪雨を心配していたのですが、御蔭さまで大会の 7・8 日は梅雨の晴れ間の晴天にも恵まれ、大会参加者も 213 名と予想を上回り、ほっとしております。

自由研究発表は、51 件と例年よりやや少なかったのですが、各会場とも参加者は多くしかも活発な討論が交わされ、密度の濃い大会を盛会のうちに終えることができたと考えております。

本大会の課題研究 4 つは、今年度から新たに、天笠茂・田村知子コーディネーターによる「カリキュラムの研究・開発・実践をめぐる行政と経営」、松下晴彦・澤田稔コーディネーターによる「民主主義社会の(再)構築に向けたカリキュラムの探求(1)D.マイヤー著『学校を変える力』の合評を通して」、西岡加奈恵・佐藤真コーディネーターによる「学校におけるカリキュラム改善の課題と展望」、磯田文雄・橋本美保コーディネーターによる「教員養成の国際的動向」のテーマで実施されました。

公開シンポジウムは、「教師は教科書にどう向き合うか」をテーマに、改訂された新たな教科書が授業づくりにどのような影響を及ぼし、いかなる問題を引き起こしているかを鮮明にしつつ、この問題にどう対処していくかをめぐって、理論的・実践的課題を明らかにしていく現実的な議論が展開されました。

大会を無事に終えることができたのは、会員の皆様の協力のおかげです。学会本部事務局長と手伝ってくれた学生のみなさん、前年度から準備にあたってきた実行委員にも、改めてお礼を申し上げます。

[中部大学:豊田 ひさき]

— 〈 広報委員会からのお知らせ 〉 —

日本カリキュラム学会では、会員を講師として派遣し、各学校、教育委員会等におけるカリキュラムに関する課題解決を支援する事業を進めています。ご希望があれば、事務局本部または広報委員会までお問い合わせください。

[広報委員会委員長:工藤文三]

— 〈 紀要編集委員会からのお知らせ 〉 —

紀要 22 号の論文投稿につきまして、送付先が下記に変更になります。

〒840-8502 佐賀市本庄町 1 番地 佐賀大学 文化教育学部 倉本哲男研究室

投稿締め切りは 9 月 30 日 (必着) です。投稿要領、投稿に関する諸注意は紀要 21 号 [投稿にあたっての注意] と裏表紙の [投稿要領] (いずれもホームページに掲載) をご覧ください。

なお、既に 21 号発行元に送られている場合には転送されます。

会員皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

— 〈 事務局からのお知らせ 〉 —

(1) 2012 年度分会費納入のお願い

大会も無事終了し、年度の半ばとなりました。今年度分の年会費が未納の方は、納入をお願いします。今後は事務の外部委託先の国際文献印刷より納入促進通知が届きます。会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

4年間の会費未納で強制退会、2009年度～2011年度の3年間または2010年度～2011年度の2年間の会費を滞納しますと会員資格一時停止者となります。学会誌が送付されなくなりすると同時に、大会での発表資格・学会誌への投稿資格を失いますので、ご注意願います。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、些細な点でも結構ですので、末尾にあります日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。よろしくお願い致します。

(2) 会報の紙媒体発行停止と web 配信への移行につきまして

会報の紙媒体での発送は今回の 59 号をもって停止させていただきます。今後は Web 配信となり、理事会開催後の 9 月、12 月、3 月にお届けする予定です。

なお、次号以降も従来通り紙媒体でのご送付を希望される場合、末尾にあります日本カリキュラム学会会員窓口までご連絡をお願い致します。

(3) マイページの会員検索機能について

9月3日をもちましてマイページから会員検索を行うことが可能になりました。ご活用下さい。

(4) 寄贈図書一覧 (2012年2月24日～2012年8月30日 事務局到着分)

本学会事務局本部に寄贈いただいた図書について、下記の通りご報告いたします。

	書名	著者	出版社	奥付日付
1	アメリカにおける多文化的歴史カリキュラム	桐谷正信	東信堂	2012年 2月29日
2	日本の学校受容—教育制度の社会史	木村元 (編著)	勁草書房	2012年 3月30日
3	自己調整学習 理論と実践の新たな展開へ	自己調整学習研究会	北大路書房	2012年 4月20日
4	理解をもたらすカリキュラム設計—「逆向き設計」の理論と方法	G.ウィギンズ/J.マクタイ著、西岡加名恵訳	日本標準	2012年 4月30日
5	学校改善マネジメント	篠原清昭 (編著)	ミネルヴァ書房	2012年 5月15日
6	大学のカリキュラムマネジメント—理論と実際—	中留武昭	東信堂	2012年 8月20日
7	子どもの発達と脳科学—カリキュラム開発のために—	安彦忠彦 (編著)	勁草書房	2012年 8月25日

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株) 国際文献印刷社内 日本カリキュラム学会会員窓口

TEL : 03-5389-6213

FAX : 03-3368-2822

E-mail:jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒112-8610

東京都文京区大塚 2-1-1

お茶の水女子大学 文教育学部 人間社会学科 富士原紀絵研究室内

日本カリキュラム学会事務局本部

E-mail:jscs@nifty.com、FAX : 03-5978-5472

【 学会ホームページ 】

URL : <http://homepage3.nifty.com/jscs/>